

ほい月

水道水は日本の宝物

国立学園小学校

牛桜 富谷 祐吏

ぼくたちは、毎日大量の水を使用する。蛇口をひねると勢いよく新鮮な水が出てきて、当たり前のようにゴクゴク飲んでいいる。湯船にたっぷりとお湯を張りゆったり浸かって、一日の疲れをサツパリ落とす。汗をかいた汚れた服も、洗濯機が綺麗にしてくれる。しかし、世界を見渡すと、水道水をそのまま飲むことができない国はたった九カ国だそうです。その九カ国の中のひとつであるドイツに学生の頃住んでいた母の話によると、水道水は口にいらしても問題はないが、美味しいわけではない。なぜなら石灰が多く含まれるためだ。現地の友人から、何年も飲み続けると石灰が身体に溜まって良くないから、濾して飲むようにとアドバイスされたそうだ。食洗機は石灰対策の製品を洗剤と一緒に使わないと庫内に白い石灰で詰まってしまう。洗濯物もそのま

2まいめ

手洗うと黒ずんでしまうため、石灰を取り除く洗剤を必ず一緒に洗濯機に入れて使用していたそうだ。それでも、蛇口から出てくる水をそのまま飲めるだけで充分ありがたい。しかし日本は、良質で、しかもおいしい水道水を当たり前に口にできるのだ。世界の中で極めて稀有な国なのだ。では、このおいしい水道水はどこで生まれるのだろうか。ぼくは水道水の源が知りたくて、この夏休みに、水道水源林のある奥多摩へ行き、小河内ダムとそれ隣接する「奥多摩水と緑のふれあい館」を見学してきた。

ぼくは、奥多摩の水道水源林の広大さにまず驚いた。緑が生い茂る森林はとても美しく、森林では落ち葉などが積もり、スポンジの様な柔らかい土が作られる。降った雨はこの土にたくわえられる。たくわえられた水は地下水となつて少しずつ流れていき、やがて川になる。こうしたはたらきから「緑のダム」とよばれている。この水道水源林から流れ出

3月

る川の水がほくたちの飲み水になる。ということ
ことは、水道水の源は雨水なのだ。雨水はも
ちろんこのまま飲めるわけでもない。安全で
おいしい水を飲むことができないのは、水道局
で働くたくさんの方々が一生懸命森林の手入
れや、水質検査をしてくださるからだ。多摩
川の上流にある水源林は、東京だけでなく山
梨まで広がっていて、面積はおよそ250平
方キロメートルである。水源林の主な働きは
①水をたくわえる。

②水をきれいにする。

③土砂が流れ出るのをふせぐ。

④空気をきれにする。

⑤さまざまな生き物を育てる。

水道水源林には人が木を植えて育てた森（
人工林）と自然の力で育った森（天然水源林）
がある。人工林は手入れをしないと、木の数が
多すぎたり、枝が伸びすぎたりして、日が
当たらず暗くなり草や木が育たなくなってしまう。
このため、暑い日も寒い日も木をかんば

4まい目

つしたり枝を切ったりして、水道の源を守る仕事をしてくださっている。

水道局の方々の細やかな取り組みにより緑のダムから少しずつ流れ出した水は、ダムにためられる。ダム（貯水地）は、いつも安定して水をためるために、川などの水をせき止めて、水をためておく場所だ。雨の量や使用量によって、川に流れる水の量を調せつする。水はそのあと、浄水場でろかされ塩素で消毒される。この間に何度も水質検査が行われ、

ようやく給水所を通る。そしてぼくたちのところへ水道水としてとどけられる。水道水について調べてみて、これまで当たり前で飲んでいた水道水は、全然当たり前でないことがわかった。沢山の方々が見えないところが生けん命組り組んでくださるおかげで安心しておいしいお水をいただけるのだ。日本は本当に特別で恵まれていると思う。ぼくは水をおたにしないために、シャワーや手を洗う時に出しっぱなしにしていた水道をきちんと止

5まい目

めようと思う。安全な水道水を送りとどけて
くださる水道局の方々に感謝して、家族や
友達、知り合いの人にも水道水のありがたさ
を伝えていきたい。